

第5B（中）分科会 教職員の専門性に関する課題

提案主題 学校運営を支える教職員の専門性向上における教頭の役割

協議の柱 教職員の学校運営参画意識を高めるための教頭の役割はどうあればよいか。

提言者 豊後高田市立真玉中学校 中 川 省 蔵

1 質 疑

- (1) Q 「河内中で学んで良かった」という目的の共有をどのようにしていったのか。
- A 職員で集まって話し合い、意思疎通をしっかりと行った。生徒に問題行動があったときにはそのつどすぐに集まって、対策を話していた。
- Q 地域の人が存続を望んでいたそうだがその思いを教職員にも伝えていたか。
- A 地域の方は、よく学校を訪問し、協力態勢ができていた。豊後高田は、全市CSができており、学校運営協議会の場合でも地域の方の要望などを聞いている。

2 協 議

- (Dグループ) ベテラン教職員のモチベーションをいかに高めるかが、カギである。職員間の意思疎通を図る時間がない中で、まず自分が一人一人の職員とつながる。時には、学級に入り生徒を通して職員とつながることも。4月の学校組織作りにおいては、ベテランと若手の配置、運営委員会の位置づけをしっかりと行うこと。また、校長とつながり、校長に必要な声かけをしてもらう。
- (Eグループ) 参画意識を高めるには、まずは組織作り。人員が足りないところは早めに把握し校長に相談する。日頃から教職員の様子をしっかりと見ておき、ミドルリーダーに助言を行う。地域とつながるために地域の行事への参加が必要だが、「働き方改革」の視点からみて、取捨選択も必要。仕事を精選することで教職員の負担軽減につながり、モチベーションアップにつながる。学校経営方針を焦点化し、職員に周知徹底する。
- (Fグループ) 提言では、「教頭がチームの話し合いに入る」「アンケートの集約を教職員で行う」などの取組が参画意識を高める要素になっている。教頭がやっているところを見せることも大切。組織作りにおいては、毎年メンバーを固定せずに、時には若手を主任にして、サブにベテランをつけるなどして、若手ベテランともに評価することも有効。

3 指導助言

- (1) 提言について
- 「小学校の授業参観」「学校紹介のパンフレット作り」「学力調査の分析」など目標達成のための取組が「見える化」されていたことが有効だった。また、昨今パワハラと受け取られることもあるが、「言いにくいこと」も言うべきことは言わなければならない。提言者のように職員との人間関係・信頼関係があれば成り立つ。
- (2) 仕事のやりがいを持たせるには目指すものを共有することが大切。企業のキャッチフレーズのようにわかりやすいものに焦点化することは大切。校長にもしっかりと助言を。
- (3) 教頭が生き生きしていると学校も生き生きする。教頭自身のモチベーションを高める工夫を。